

埼玉県木協だより 第56号	発行日：平成30年5月22日 発行責任者：（一社）埼玉県木材協会 会長 坂東 正一郎 編集責任者： " 副会長 関根 進
--------------------------	---

○ 通常総会が終了しました。

第57回埼玉県木材協会通常総会、第64回埼玉県木材協同組合通常総会を、5月18日（金）さいたま共済会館で、桶本さいたま市議会議員様、山崎埼玉県農林部副部長様をはじめ、多くの来賓の方にお越しいただき開催し、提出された全議案が承認されました。

○ 坂東会長あいさつ

いかるがの棟梁 西岡常一が、法隆寺五重塔再建には木を学び、木の命、木の心を知ることが重要、と口伝の大切さを訴えておられたということ、私は今年の全国木材産業振興大会（奈良県開催）において胸に刻みました。

元来、日本は自然災害の多い国のひとつとされ、火山活動、地震、風水害等が頻繁に発生し、自然との共生にきづかい・心づかいをしてまいりました。いまだに東日本大震災、原発事故のため福島県の復興は厳しいものと伺っております。私もはいつもお見舞いの気持ちを忘れてはおりません。復興への希望を持っていただきたいと願っております。

さて、木材産業をめぐる状況については相変わらず厳しい状況ではございますが、国産材自給率は6年連続して上昇し34.8%となりました。しかし、需要量は用材において105万9千立方メートルで1.5%の伸び、全体としては需要の増加は期待しにくい状況にあります。また、住宅着工戸数は昨年度の96万4千戸に対して本年度は85万戸前後と予測されており、全体としての動きは決して良くはなく、大手寡占の続く中、中小工務店の今後の動向が注目されるところです。

日本経済は、中国経済の減速、東南アジアの好調、EUからの英国離脱などの外部要因により予測はつけにくく、木材関係では、木質バイオマス、CLT・大型製材工場・合板工場の新設及び国産材の輸出等新たな木材需要分野の拡大など、不透明な要素が多いまま激動の時代・転換の時代を迎えております。

そのような中、国は「地方創生」を重要課題として、特に森林木材産業を成長産業として位置づけ、林業の成長産業化、森林吸収源対策、合板・製材工場の競争力強化、建築基準法の改正等の施策を推進し、非住宅への木材の多用と見える化を図っております。その象徴として、東京オリンピック・パラリンピックを機に、我が国が誇る「木の文化」を世界に、そして国内に発信しております。

業界を挙げて、この追い風をチャンスにしていきたいと思います。

また、林野庁のJAS製材品への支援、CLT普及への予算措置、国交省の「建築の円滑な実施に向けた手引」の公表、森林環境税・譲与税の創設等、森林から都市部まで手厚く幅広い施策が出されてきております。木材協会ではこれらの施策をしっかりと受け止め、昨年同様、県民を通して「みんなで使おう埼玉の木」の彩の木補助事業を実施し、本年度はその中に住宅設計コンテストを新設するなど更なる県産木材の周知を目指したいと考えております。同時に、林野庁のJAS構造材活用事業者拡大事業制度も最大限に活用し、木材利用の促進を図ってまいります。

森林環境税・譲与税の都市部での活用は、新しい木材利用促進の手法であり、多様な連携が生まれてまいります。本格的な木材利用拡大を訴える連携の和を、この機会を捉えて、県・市議会議員、市町村担当者、建築士、木材業者、施工業者等に訴えていく所存です。

また、「木とのふれあい祭り」は諸事業の中で最も優先することとし、誰にも見え、わかっていただく木材業界啓発運動の原点としていきます。木材関連業者はもちろん、その他の業界を巻き込んだ活動として挑戦していく、新しい型の木材PRとともに励んでいこうではありませんか。

日本の森林資源は毎年約1億立方メートルずつ増加し、今や50億立方メートルの蓄積があります。毎年7千万立方メートルの素材生産が可能な状況ですが、実際に使われているのは約2千7百万立方メ

ートルです。しかも、適切な伐採がなされてきませんでした。森林の荒廃は明らかに進んでいます。環境保護に配慮しつつ、適切な国産材の優先利用は、私たち国民すべてに課せられた「社会的使命」であると受け止めるべきではないでしょうか。

技術の進歩だけでは必ずしも魅力的な建築は生まれません。「木造でもできる」から「木造だからできる」へ、木造建築の特徴を活かした都市木造の技術が求められています。業界ができることから勉強し、実施し、森と都市の共生、地産地消と地産都消を目標に、自由競争経済社会の規律を守って進んでいくことを期待しております。

そして、中小規模事業者の多い木材業界活性化のための支援及び共に行動できる具体的な仕組みづくりを考えていきたいと思っております。

○ 業界優良者表彰 5名の方が受賞しました。

埼玉県知事感謝状	株式会社井出材木店	井出 正明 様
一般社団法人全国木材組合連合会関東支部長・一般社団法人埼玉県木材協会会長連名賞	有限会社高野材木店	高野 耕次 様
	株式会社ウッディーコイケ	田端 敏夫 様
	株式会社フォレスト西川	町田 一敏 様
	株式会社フォレスト西川	高木 敦 様

おめでとうございます。

○ 木材協会の森（深谷市鐘撞堂）で「木の講座」を開催します。

6月2日（土）に「木の講座」を開催します。多くの会員の参加をお待ちしております。

○ 彩の木補助事業 5月1日～申込受付を開始しました。

平成29年9月1日以降に工事請負契約（売買契約）を締結し、来年2月28日までに木工事が完了するものが対象です。

補助額は、県産木材使用量1立方メートル当たり17,000円。内装木質化（既存の建物のリフォーム、リノベーション）の場合は1平方メートル当たり3,000円で、限度額はいずれも34万円です。

昨年度と同様に、年度途中で予算額に達することが見込まれます。お早めのお申込みをお願いいたします。

○ 埼玉県中大規模木造建築技術者講習・登録制度がスタートします。

埼玉県木造公共施設推進協議会が主催する埼玉県中大規模木造建築技術者講習・登録制度「地域を育てるプロ養成講座」を開講します。

この制度は、中大規模木造建築物への木材利用拡大を図るため、埼玉建築士会と連携し、木材関係に特化した防耐火材の利用や構造材特有の性質等、専門的な知識を建築士などに習得していただくものです。この新しいCPD制度利用は、埼玉から全国に情報発信する先駆けとなります。